

「キリストにある平和」

本日は、日本基督教団の教会暦によると「平和聖日」と定められています。本日に限らず誰もが平和を願うものですが、最近の世界情勢を見ますと、戦争が益々激化しているように思います。攻撃を仕掛けた側も報復する側も、自分達の正義を主張して譲れない有り様です。また、戦争のみならず、新聞やテレビで報道される凶悪な犯罪等を見聞きしており、平和とは程遠い世の中であるようにも思われます。そのような報道を目の当たりにしますと、国の為政者や世の悪に対して非難したくなりがちになるものです。しかし、よく考えてみますと無意識のうちに、「あの人たちは間違っている、自分は正しい」という思いが潜んでいると思うのです。自分を正しい者として他者を責めるところに、もはや平和に満ちた関係はありません。自分を主張し、いかに自分が正しいか、優れているか、互いに譲らない時、既に私たちは神から遠く離れ去っていることを認めざるを得ません。そこには神と人との破れ、人と人との破れがあることに気づかされます。そこにこそ人間の罪の恐ろしい姿があるといえると思います。そのような中で、平和について討論しあったとしても、何かの条件が整えられたとしても平和は訪れることはないでしょう。

「正しい者はいない。一人もない」(ロマ 3:9)と、非常に厳しい言葉が記されていますが、正にこの世で正しい人は唯、お一人、イエス・キリストのみです。この方との関係がない限り、平和は訪れることはありません。実に神様との関係が崩れた結果がこの世の有様であるということを、認識している人は少数であろうと思います。ですから、人間の歴史は、戦争の歴史・殺し合いの歴史であるといわざるを得ません。国と国、民族と民族ではなくとも、身近に私たちは小さな戦争をいくらかでも見て聞いて体験しています。私たちは毎日どれだけの悪口を聞き、どれだけの中傷や争いを目にしていることでしょうか。また自らも人を非難したり否定的な言葉を口にしてはいないか、振り返って心を探る必要があると思います。

そのような私たちたちの罪のため、悪の世から私たちを救い出すためにイエス様がご自身が、罪の贖いの犠牲として、十字架の上で自ら苦しみを負ってくださいました。そうして、神と私たちの間に平和を打ち立ててくださったのです。御子の苦しみによって、流された血潮によって打ち立てられた平和です。そのイエス様は仰せになりました。「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれるであろう」(マタイ 5:9)そこには戦いを避けるだけでなく、一歩積極的に平和を造り者となるようにと語られています。ですから、妬みや嫉妬、差別、その他の恐ろしいものが心の中に満ちている人は、決して平和は作り出す事は不可能です。

十字架によって一つとされた

本日の箇所はイエス様によってイスラエル民族及び、異邦人が一つにされたという事が記されています。ユダヤ人(イスラエル)の選民意識、つまりイスラエル民族は、プライド・誇りを固く握りしめ、異邦人は神を知らないから希望はない、と軽蔑・差別する壁を作っていました。しかし、イエス様の十字架の死によってその隔ての壁、敵意が取り除かれ、神との和解、そして民族間との和解の内に其々が平和に生きる新しい命が与えられたのです。二つのものを一つとは、言語のギリシャ語では、顔なじみでない友達と一緒にするという意味で用いられる言葉です。十字架において顔なじみでない同志が隔ての壁が取り壊されて、神にある兄弟姉妹として双方を一人の新しい人に造り上げられたのです。

イスラエル民族のみならず、人は、自らを高くし、他者を下にしようとして壁を作ります。また、例え自分が正しいとしても、その事が人に対する敵意となって現れる時、罪のとりことなり、ついには罪に陥ってしまっているのです。しかし、イエス様の十字架を仰ぐことにより、イエス様の十字架を思い起こし、神に立ち返るならば、そこに平和が築かれ和解が生まれてきます。翻っていうならば、神に立ち返らない限り、罪の縄目から解かれず平和は永遠にやってこないということです。

赦された者が赦す者へ

さて、自分を主張し互いに譲らない時、神から遠ざかり神の御前には立っていないということになります。互いに和解できず罪に陥っている姿をイエス様はどのように見つめているのでしょうか。イエス様側に立って考えてみたいものです。そんな情けない者の為に、イエス様御自身が十字架に架かってくださって血を流されて神の愛を示してくださったことを、もう一度思い起こしたいです。こんな私の罪の為にイエス様は十字架に架かってくださった、と心から受け入れた時、いかに自分が正しいか、優れているか、という思いから解き放たれ、イエス様の愛をもって互いを思いやり・労わり合い、助け合う者と変えられて、怒りや敵意という罪はイエス様の十字架によって赦され、聖められて兄弟姉妹となってゆくことでしょう。

私たちは今、直ちに世界中に平和を齎すことは難しいですが、神を知っている者として変わらなければならないと思います。それは、神を愛し、人を愛する者となることです。その完成は、「主と同じ姿」になると聖書に記されています(Ⅱコリント 3:18)。これは私たちの人生、そして教会の最大の目標です。これこそが、この事のみが平和へと続く道であります。その業を成し遂げてくださるのは神であり、私たちは十字架を見上げつつ神に信頼して平和を実現する者として歩んで参りたいです。これから聖餐式が行われます。キリストの肉と血に与り、罪赦された新しい人として、この世に送り出されていきます。先ず、身近な所から。家から、教会から平和を造り出す者として用いさせて頂きましょう。

最後に平和を求める祈り(アッシジの聖フランシスコ)をご一緒に祈りましょう。

わたしをあなたの平和の道具としてお使いください

憎しみのあるところに愛を　いさかいのあるところにゆるしを

分裂のあるところに一致を　疑惑のあるところに信仰を

誤っているところに真理を　絶望のあるところに希望を

闇に光を　悲しみのあるところに喜びを　もたらすものとしてください

慰められるよりは　慰めることを理解されるよりは　理解することを

愛されるよりは　愛することをわたしが求めますように

わたしたちは　与えるから受け　ゆるすからゆるされ

自分を捨てて死に　永遠のいのちをいただくのですから